

令和5(2023)年度 保護者等からの事業所評価の集計結果【児童発達支援(発達障がい児個別療育事業)】

公表: 令和6年4月1日

事業所名 門真市立こども発達支援センター

保護者数等(児童数) 7人 回収数 7枚 割合 100%

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	無回答	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	① 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	7	0	0	0	0	◇「ひまわり」の部屋も走り回ったり様々な運動ができるくらい十分なスペースがあると思います。 ◇少人数制なので広々使えている。 ◇もてあます程のスペースだと思う。	引き続き、子どもの活動スペースが十分かを確認しながら、療育をまいりませう。
	② 職員の配置数や専門性は適切であるか	7	0	0	0	0	◇保育士さん、STさん、OTさん等、専門の方がいて、手厚く見ていただいています。 ◇適切だと思う。 ◇とても行きわたっている。	専門性につきましては、センターには保育士以外にも様々な専門職を配置しておりますので、引き続き、職員研修を実施するほか、職員一人ひとりが自己研鑽に取り組むなど、それぞれの専門性を高めるよう、担任を中心にグループ全体で取り組んでまいりませう。
	③ 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境※1になっているか。また、子どもの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	7	0	0	0	0	◇「ひまわり」一身体を動かす部屋、「あさがお」→ホワイトボードや机があって楽しくお勉強する部屋等の様に分かりやすいです。 ◇安全だと思う。 ◇どこの部屋で何ができるのかよく理解できている。	引き続き、生活空間や設備等が十分に配慮されているかを確認しながら、療育をまいりませう。
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	7	0	0	0	0	◇部屋もトイレもとてもきれいで清潔な印象です。 ◇壁にもクッションが張られていて安全だと思う。 ◇とても整っている。	引き続き、清潔で心地よく過ごせる環境づくりに取り組んでまいりませう。
適切な支援の提供	⑤ 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画※2が作成されているか	7	0	0	0	0	◇保護者の気になる点や希望を取り入れた支援計画を作成していただきました。 ◇作成されている。 ◇苦手なことに沿った課題を設定してくれている。	引き続き、保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で児童発達支援計画が作成できるよう取り組んでまいりませう。
	⑥ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドライン「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	7	0	0	0	0	◇自分の子に合った支援内容が設定されていると思います。	引き続き、適切な支援内容が設定できるよう、グループ全体で取り組んでまいりませう。また、保護者が十分理解できるよう、丁寧な説明を行ってまいりませう。
	⑦ 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	7	0	0	0	0		引き続き、児童発達支援計画に沿った支援を行うよう、担任を中心にグループ全体で取り組んでまいりませう。
	⑧ 活動プログラム※3が固定化しないよう工夫されているか	7	0	0	0	0	◇毎回楽しんでるので工夫されていると思う。	担任が中心となり活動プログラムを工夫しておりますが、子どもたちの様子を確認しながら幅広い活動プログラムが提供できるよう、取り組みを進めてまいりませう。
	⑨ 保育園や認定こども園、幼稚園等との交流や、子どもと活動する機会があるか	2	0	0	0	5		子ども1人1人に対して、療育を提供する時間が週1回1時間となっているため、地域の保育園や認定こども園・幼稚園等に通園する子どもと活動する機会を設けることは難しいですが、療育を受けている子どもは全て、保育園や認定こども園・幼稚園等に通園しているため、療育の中で引き続き子ども同士の交流を継続してまいりませう。
保護者への説明等	⑩ 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	7	0	0	0	0	◇最初に詳しく説明していただきました。 ◇いつも丁寧で安心できる。	引き続き、丁寧な説明を行うよう心掛けてまいりませう。
	⑪ 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	7	0	0	0	0		引き続き、丁寧にわかりやすい説明ができるよう、グループ全体で取り組んでまいりませう。
	⑫ 保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング※4等)が行われているか	7	0	0	0	0		引き続き、ペアレント・トレーニング事業など、センターで実施している事業の情報提供に努めるとともに、今後も保護者に寄り添った支援の取り組みを進めてまいりませう。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	無回答	ご意見	ご意見を踏まえた対応
保護者への説明等	⑬	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	7	0	0	0	0	◇保育園で子どもの気になる点をHANAの先生に相談して、いつもアドバイスをいただいています。 ◇職員の方も話しやすく、家や園の事を伝えやすい。 ◇毎回、状況を説明してくれて、次回の課題を提案してくれる。	今後においても引き続き、保護者が個別療育へ来所された時などを捉え、機会あるごとに子育てへの不安感や困りごとについて傾聴するなど、保護者と子どもの様子について共通認識を持ちながら、よりよい療育につながるよう取り組んでまいります。
	⑭	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	7	0	0	0	0		今後においても引き続き、決められた面談の時期だけでなく、必要なタイミングで保護者の悩みに寄り添えるよう、普段から相談しやすい雰囲気づくりに努め、保護者から専門職等に相談された際は、担任と共有し、子どもの成長につながる助言を行うよう、取り組んでまいります。
	⑮	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	3	1	1	1	1	◇助けになっていると思う。 ◇少人数グループ活動により、メンバーとの交流はあるが、その他の保護者とのかわりはない。 ◇保護者同士の関わりを望んでいないので無くていい。	今年度は、保護者同士の集いの機会として12月4日にカーネーションくらぶを開催させていただきました。今後につきましても、年長児を対象とした同年代の子どもの小グループでの療育を行うことで保護者同士の交流の場を提供できるよう取り組んでまいります。
	⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応しているか	7	0	0	0	0	◇些細な事でも連絡をしていたでいます。 ◇当人はもちろん、兄弟の相談にも対応してくれている。	まずは担任が子どもや保護者からの相談に適宜対応してまいります。担任だけでは対応が難しいものにつきましては、管理職も一緒になって適切に対応できるよう、職員間の連携を図ってまいります。
	⑰	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	7	0	0	0	0		引き続き、子どもとは子どもの特性に合わせた意思疎通を図り、保護者とは電話や面談等で意思疎通を図ってまいります。
	⑱	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	5	1	0	1	0		おたより「HANA・TABU」を年3回（6・9・2月）発行し、行事予定等をお知らせしているほか、マチコアプリも使って、保護者への連絡を迅速にお知らせいたしております。今後につきましても、保護者にわかりやすい情報発信を検討してまいります。
	⑲	個人情報の取扱いに十分注意されているか	7	0	0	0	0		引き続き、個人情報取り扱いについて十分注意し、研修等にも参加してまいります。
非常時等の対応	⑳	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	3	2	0	2	0	◇特に訓練等の実施はない。	非常時に対応するのに十分なマニュアルとなるよう、策定、改訂をしてまいります。また、今年度から防犯訓練も実施しており、引き続き、実施してまいります。
	㉑	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	3	2	0	2	0	◇特に訓練等の実施はない。	毎月避難訓練を行い、課題は会議等で話し合っております。また、実施の前後には、できるだけ保護者にお知らせをするよう、取り組んでまいります。
満足度	㉒	子どもはセンターに通うことを楽しみにしているか	7	0	0	0	0	◇いつも楽しみにしています。 ◇HANAの日だと伝えると大喜びしている。 ◇とても楽しみにしている。	引き続き職員のスキルアップを図り、HANA（個別療育事業）へ行くことが楽しみになるよう、日々取り組んでまいります。
	㉓	事業所の支援に満足しているか	7	0	0	0	0	◇また通わせていただきたいくらい満足です。 ◇満足している。 ◇とても良くしていただいている。	引き続き、療育の工夫を重ねることで、よりよい療育を行えるよう、また、保護者とのコミュニケーションを密に取り信頼関係を築きながら必要な支援が行えるよう取り組みを進めてまいります。

(注釈)

※1 「本人にわかりやすく構造化された環境」は、この部屋で何をするのか示せるように、机や本棚の配置など、子ども本人にわかりやすくすることです。

※2 「児童発達支援」は、児童発達支援を利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標や達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のことです。これは、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の児童発達支援管理責任者が作成します。

※3 「活動プログラム」は、事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のことです。子どもの障害の特性や課題に応じて柔軟に組み合わせられて実施されることが想定されます。

※4 「ペアレント・トレーニング」は、保護者が子どもの行動を観察して障害の特性を理解したり、障害の特性を踏まえた褒め方等を学ぶことにより、子どもが適切な行動を獲得することを目標とします。

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果【児童発達支援(発達障がい児個別療育事業)】」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表(発達障がい児個別療育事業)」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。